

令和4年度

山梨市一般・特別会計歳入歳出決算
及び基金運用状況審査意見書

山梨市監査委員

梨監査第 8 - 1 号
令和 5年 8月 18日

山梨市長 高 木 晴 雄 様

山梨市監査委員 古 谷

山梨市監査委員 星 野



令和 4 年度 山梨市一般会計・特別会計歳入歳出決算及び
基金運用状況の審査意見書について

地方自治法第 2 3 3 条第 2 項及び同法第 2 4 1 条第 5 項の規定により、審査に
付された令和 4 年度山梨市一般会計及び特別会計歳入歳出決算並びに基金運用
状況の審査を行なったので、次のとおり意見書を提出します。

目 次

第1	審査の概要	1
1	審査の対象	1
2	審査の実施期間	1
3	審査の方法	1
第2	審査の結果	2
1	総括	2
(1)	決算の規模	2
(2)	決算の収支	2
(3)	市債の償還及び残高	3
2	一般会計	6
(1)	概要	6
(2)	歳入	11
(3)	歳出	14
3	特別会計	17
(1)	国民健康保険特別会計	17
(2)	後期高齢者医療特別会計	20
(3)	交通・火災災害共済事業特別会計	21
(4)	浄化槽事業特別会計	23
(5)	介護保険特別会計	24
(6)	居宅介護予防支援事業特別会計	26
(7)	活性化事業特別会計	27
4	財産に関する調書	28
(1)	公有財産	28
(2)	物品	28
(3)	基金	29
5	審査意見	30
(1)	一般会計	30
(2)	特別会計	32

(注) 本書において、比率(%)は原則として小数点以下第2位を四捨五入とした。
従って、合計と内訳の計、差引などが一致しない場合がある。

令和4年度 山梨市
一般会計・特別会計歳入歳出決算及び基金運用状況審査意見書

第1 審査の概要

1 審査の対象

令和4年度	山梨市一般会計歳入歳出決算書
令和4年度	山梨市国民健康保険特別会計歳入歳出決算書
令和4年度	山梨市後期高齢者医療特別会計歳入歳出決算書
令和4年度	山梨市交通・火災災害共済事業特別会計歳入歳出決算書
令和4年度	山梨市浄化槽事業特別会計歳入歳出決算書
令和4年度	山梨市介護保険特別会計歳入歳出決算書
令和4年度	山梨市居宅介護予防支援事業特別会計歳入歳出決算書
令和4年度	山梨市活性化事業特別会計歳入歳出決算書
令和4年度	財産に関する調書

2 審査の実施期間

令和5年7月20日から令和5年8月2日まで

3 審査の方法

審査に当たっては、市長から提出された各会計歳入歳出決算書、歳入歳出決算事項別明細書、実質収支に関する調書、財産に関する調書及び各基金の運営状況を示す書類について、次の事項に主眼をおき、関係職員からの説明を聴取し、併せて定期監査及び例月出納検査の結果を踏まえて決算審査を行った。

- ①各計数は正確であるか
- ②予算の執行が、議決の趣旨に沿って適正かつ効果的に執行されているか
- ③財務に関する事務は、財務規則及び関係法令等に適合して、公正に処理されているか
- ④財政運営は健全か
- ⑤財産の取得・管理及び処分は、適正に処理されているか

第2 審査の結果

審査に付された一般会計・特別会計の歳入歳出決算書、歳入歳出決算事項別明細書、実質収支に関する調書、財産に関する調書及び各基金運用状況に関する調書は、関係法令等に準拠して作成されており、決算計数はいずれも関係諸帳簿・証拠書類と照合した結果、誤りのないものと認められた。また、各決算の内容、予算の執行状況については、適正であると認められた。

1 総括

(1) 決算の規模

令和4年度の一般会計及び特別会計の決算は、次のとおりである。

一般会計・特別会計決算

(単位：円)

区 分	一般会計	特別会計	合 計
予 算 現 額	25,926,163,232	9,448,648,000	35,374,811,232
歳 入 決 算 額	26,465,564,579	9,163,802,162	35,629,366,741
歳 出 決 算 額	24,417,339,069	8,775,544,737	33,192,883,806
歳入歳出差引額	2,048,225,510	388,257,425	2,436,482,935

令和4年度一般会計及び特別会計の歳入歳出の決算額は、

歳入総額 35,629,366,741円 (予算現額に対する割合100.7%)

歳出総額 33,192,883,806円 (予算現額に対する割合 93.8%)

差引残額 2,436,482,935円である。

(2) 決算の収支

決算の収支は、次のとおりである。

決算収支

(単位：円)

区 分	一般会計	特別会計	合 計
形 式 収 支	2,048,225,510	388,257,425	2,436,482,935
翌年度へ繰越すべき財源	132,043,141	1,881,000	133,924,141
実 質 収 支	1,916,182,369	386,376,425	2,302,558,794

総決算額における歳入歳出差引額（形式収支）は、2,048,225,510円の黒字となっている。この中には翌年度に繰越すべき財源が、一般会計の132,043,141円が含まれているため、この金額を除いた1,916,182,369円が、令和4年度の実質黒字になっている。

(3) 市債の償還及び残高

市債の償還額及び残高は次表のとおりである。

(単位：円)

年 度	償 還 額	市債残高
令和4年度	2,473,276,318	21,551,561,631
令和3年度	2,363,788,365	23,304,461,949

第1表

令和4年度 各会計決算総括表

(単位：円，%)

区 分 会計別	予算現額	歳 入			歳 出			収支差引額 (形式収支) A - B = C	翌年度へ 繰越すべき 財源額 D	実質収支額 C - D = E	
		決算額 A	構成比	対予算 収入率	決算額 B	構成比	対予 算執 行率				
一般会計	25,926,163,232	26,465,564,579	74.3	102.1	24,417,339,069	73.6	94.2	2,048,225,510	132,043,141	1,916,182,369	
特別会計	9,448,648,000	9,163,802,162	25.7	97.0	8,775,544,737	26.4	92.9	388,257,425	1,881,000	386,376,425	
内 訳	国民健康保険	4,539,643,000	4,171,638,532	11.7	91.9	4,037,987,418	12.2	88.9	133,651,114	0	133,651,114
	後期高齢者医療	533,175,000	527,690,494	1.5	99.0	525,950,825	1.6	98.6	1,739,669	0	1,739,669
	交通・火災災害 共 済 事 業	18,386,000	10,711,003	0.1	58.3	7,064,391	0.1	38.4	3,646,612	0	3,646,612
	浄化槽事業	59,759,000	58,481,078	0.2	97.9	58,481,078	0.2	97.9	0	0	0
	介護保険	4,176,448,000	4,284,364,657	12.0	102.6	4,037,025,627	12.2	96.7	247,339,030	0	247,339,030
	居宅介護予防 支 援 事 業	14,735,000	14,405,713	0.1	97.8	14,405,713	0.1	97.8	0	0	0
	活性化事業	106,502,000	96,510,685	0.3	90.6	94,629,685	0.3	88.9	1,881,000	1,881,000	0
合 計	35,374,811,232	35,629,366,741	100.0	100.7	33,192,883,806	100.0	93.8	2,436,482,935	133,924,141	2,302,558,794	

第2表

令和4年度 各会計収支実績及び資金運用状況表（令和4年4月～令和5年5月）

月別 区分	令和4年4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
歳入総額	1,588,162,826	1,262,337,422	5,737,736,363	1,657,655,342	1,585,133,868	2,964,784,092	1,686,947,678
（一般会計）	1,548,562,029	591,960,793	4,937,682,941	796,954,892	902,830,950	2,281,541,070	1,174,519,688
（特別会計）	39,600,797	670,376,629	800,053,422	860,700,450	682,302,918	683,243,022	512,427,990
歳出総額	797,360,730	1,419,806,857	2,234,646,723	1,984,289,259	1,829,085,039	3,372,441,700	2,431,935,298
（一般会計）	751,682,506	800,502,281	1,624,217,735	1,351,751,801	1,049,294,463	2,589,997,652	1,679,946,494
（特別会計）	45,678,224	619,304,576	610,428,988	632,537,458	779,790,576	782,444,048	751,988,804
当月収支差引	790,802,096	△ 157,469,435	3,503,089,640	△ 326,633,917	△ 243,951,171	△ 407,657,608	△ 744,987,620
累計収支差引 A	790,802,096	633,332,661	4,136,422,301	3,809,788,384	3,565,837,213	3,158,179,605	2,413,191,985
一時借入金残高 B	0	0	0	0	0	0	0
一時繰替借残高 C	0	0	0	0	0	0	0
一時繰替貸残高 D	0	0	0	0	0	0	0
翌年度繰越残高 E	0	0	0	0	0	0	0
当年度資金残高 A+B+C+D+E=F	790,802,096	633,332,661	4,136,422,301	3,809,788,384	3,565,837,213	3,158,179,605	2,413,191,985
前年度又は 翌年度資金残高 G	0	0	0	0	0	0	0
資金残高 F+G=I	790,802,096	633,332,661	4,136,422,301	3,809,788,384	3,565,837,213	3,158,179,605	2,413,191,985

(単位：円)

11月	12月	令和5年1月	2月	3月	4月	5月	合計
3,048,004,662	1,961,778,577	2,788,524,702	1,224,423,744	7,615,159,907	569,512,293	1,939,205,265	35,629,366,741
2,186,899,775	1,383,598,459	2,155,372,298	491,873,068	6,492,572,797	463,175,083	1,058,020,736	26,465,564,579
861,104,887	578,180,118	633,152,404	732,550,676	1,122,587,110	106,337,210	881,184,529	9,163,802,162
2,085,422,252	2,286,717,787	1,949,844,616	1,946,370,571	8,346,615,309	1,360,200,760	1,148,146,905	33,192,883,806
1,316,206,415	1,518,708,103	1,155,935,178	1,184,485,856	7,324,017,973	963,207,673	1,107,384,939	24,417,339,069
769,215,837	768,009,684	793,909,438	761,884,715	1,022,597,336	396,993,087	40,761,966	8,775,544,737
962,582,410	△ 324,939,210	838,680,086	△ 721,946,827	△ 731,455,402	△ 790,688,467	791,058,360	2,436,482,935
3,375,774,395	3,050,835,185	3,889,515,271	3,167,568,444	2,436,113,042	1,645,424,575	2,436,482,935	
0	0	0	0	0	0	0	
0	0	0	0	0	1,000,000,000	0	
0	0	0	0	0	0	0	
0	0	0	0	0	0	0	
3,375,774,395	3,050,835,185	3,889,515,271	3,167,568,444	2,436,113,042	2,645,424,575	2,436,482,935	
0	0	0	0	0	0	0	
3,375,774,395	3,050,835,185	3,889,515,271	3,167,568,444	2,436,113,042	2,645,424,575	2,436,482,935	

2 一般会計

(1) 概要

① 決算収支

一般会計の決算状況は、

予 算 現 額	25,926,163,232円
歳 入 決 算 額	26,465,564,579円 (予算現額に対する割合 102.1%)
歳 出 決 算 額	24,417,339,069円 (予算現額に対する割合 94.2%)
歳入歳出差引額	2,048,225,510円

であり、この形式収支の金額から翌年度へ繰り越すべき財源132,043,141円を差し引いた実質収支額は、1,916,182,369円の黒字となった。

これを繰越金として翌年度に繰り越した。

② 予算執行状況

一般会計歳入総額は26,465,564,579円で、予算現額25,926,163,232円に対する比率は、102.1%となっている。これを前年度の歳入総額24,760,594,541円と比べると、1,704,970,038円 (6.9%) の増加となっている。

不納欠損額は22,127,391円で、前年度の14,315,376円と比べると54.6%の増加となっている。収入未済額は218,619,973円で、前年度の251,457,633円と比べると13.1%の減少となった。収入未済額に占める市税の割合は、125,101,450円で57.2%である。

一方、歳出総額は24,417,339,069円で、前年度の歳出総額22,947,497,112円と比べると1,469,841,957円 (6.4%) の増加となっている。予算現額25,926,163,232円に対する執行率は94.2%となっており、不用額は1,155,034,708円である。不用額の主なものは、総務費の241,763,475円、民生費326,325,798円、衛生費295,820,680円などである。

③ 一般会計の決算状況を前年度（令和3年度）と比べると、次表のとおりである。

区 分 / 年 度	令和4年度	令和3年度	対前年度増減額
A 予算現額	25,926,163,232	24,255,334,668	1,670,828,564
B 歳入決算額	26,465,564,579	24,760,594,541	1,704,970,038
C 歳出決算額	24,417,339,069	22,947,497,112	1,469,841,957
D 歳入歳出差引額 (B-C)	2,048,225,510	1,813,097,429	235,128,081
E 翌年度へ繰越すべき財源	132,043,141	121,645,470	10,397,671
F 実質収支額 (D-E)	1,916,182,369	1,691,451,959	224,730,410
G 前年度実質収支額	1,691,451,959	582,337,129	1,109,114,830
H 単年度収支額	224,730,410	1,109,114,830	△ 884,384,420
予 算 歳入 (B/A)	102.1	102.1	
執行率 歳出 (C/A)	94.2	94.6	

第3表

一般会計款別歳入状況表

(単位:円, %)

区分 科目(款)	予算現額	調定額	収入済額	不納欠損額	収入未済額	予算現額と収入 済額との比較	対予算現額		対調定 収入率	収入済 額の構 成比
							調定率	収入率		
1. 市税	3,965,301,000	4,334,833,191	4,197,452,931	12,278,810	125,101,450	232,151,931	109.3	105.9	96.8	15.9
2. 地方譲与税	152,841,000	161,267,000	161,267,000	0	0	8,426,000	105.5	105.5	100.0	0.6
3. 利子割交付金	1,100,000	1,595,000	1,595,000	0	0	495,000	145.0	145.0	100.0	0.0
4. 配当割交付金	13,000,000	19,570,000	19,570,000	0	0	6,570,000	150.5	150.5	100.0	0.1
5. 株式等譲渡 所得割交付金	17,000,000	17,016,000	17,016,000	0	0	16,000	100.1	100.1	100.0	0.1
6. 法人事業税 交付金	43,000,000	55,543,000	55,543,000	0	0	12,543,000	129.2	129.2	100.0	0.2
7. 地方消費税 交付金	750,000,000	819,972,000	819,972,000	0	0	69,972,000	109.3	109.3	100.0	3.1
8. 環境性能割 交付金	16,200,000	18,235,000	18,235,000	0	0	2,035,000	112.6	112.6	100.0	0.1
9. 地方特例 交付金	25,000,000	33,239,000	33,239,000	0	0	8,239,000	133.0	133.0	100.0	0.1
10. 地方交付税	5,809,115,000	6,259,165,000	6,259,165,000	0	0	450,050,000	107.7	107.7	100.0	23.7
11. 交通安全対策 特別交付金	3,400,000	2,646,000	2,646,000	0	0	△ 754,000	77.8	77.8	100.0	0.0
12. 分担金及び 負担金	181,545,000	178,943,207	168,033,973	3,386,921	7,522,313	△ 13,511,027	98.6	92.6	93.9	0.6
13. 使用料及び 手数料	264,781,000	360,569,519	268,111,649	6,461,660	85,996,210	3,330,649	136.2	101.3	74.4	1.0
14. 国庫支出金	3,695,453,762	3,496,924,133	3,496,924,133	0	0	△ 198,529,629	94.6	94.6	100.0	13.2
15. 県支出金	1,322,651,000	1,243,233,988	1,243,233,988	0	0	△ 79,417,012	94.0	94.0	100.0	4.7
16. 財産収入	39,532,000	44,405,578	44,405,578	0	0	4,873,578	112.3	112.3	100.0	0.2
17. 寄附金	3,408,200,000	3,607,414,116	3,607,414,116	0	0	199,214,116	105.8	105.8	100.0	13.6
18. 繰入金	3,223,799,000	3,195,900,204	3,195,900,204	0	0	△ 27,898,796	99.1	99.1	100.0	12.1
19. 繰越金	1,813,096,470	1,813,097,429	1,813,097,429	0	0	959	100.0	100.0	100.0	6.9
20. 諸収入	317,372,000	322,366,578	322,366,578	0	0	4,994,578	101.6	101.6	100.0	1.2
21. 市債	863,776,000	720,376,000	720,376,000	0	0	△ 143,400,000	83.4	83.4	100.0	2.7
歳入合計	25,926,163,232	26,706,311,943	26,465,564,579	22,127,391	218,619,973	539,401,347	103.0	102.1	99.1	100.0

第4表

一般会計歳入決算額比較表

(単位：円，%)

科目(款) / 区分	令和4年度	構成比	対前年度比較 増減率	令和3年度	構成比
1. 市税	4,197,452,931	15.9	3.2	4,065,381,704	16.4
2. 地方譲与税	161,267,000	0.6	0.2	160,948,000	0.7
3. 利子割交付金	1,595,000	0.0	△ 46.3	2,972,000	0.0
4. 配当割交付金	19,570,000	0.1	△ 7.2	21,098,000	0.1
5. 株式等譲渡所得割交付金	17,016,000	0.1	△ 37.8	27,375,000	0.1
6. 法人事業税交付金	55,543,000	0.2	68.4	32,983,000	0.1
7. 地方消費税交付金	819,972,000	3.1	2.3	801,811,000	3.2
8. 環境性能割交付金	18,235,000	0.1	25.6	14,519,000	0.1
9. 地方特例交付金	33,239,000	0.1	△ 61.2	85,683,000	0.3
10. 地方交付税	6,259,165,000	23.7	△ 3.3	6,470,815,000	26.1
11. 交通安全対策特別交付金	2,646,000	0.0	△ 13.8	3,071,000	0.0
12. 分担金及び負担金	168,033,973	0.6	△ 39.8	279,329,188	1.1
13. 使用料及び手数料	268,111,649	1.0	△ 2.8	275,852,828	1.1
14. 国庫支出金	3,496,924,133	13.2	△ 12.6	4,002,367,166	16.2
15. 県支出金	1,243,233,988	4.7	9.9	1,130,923,138	4.6
16. 財産収入	44,405,578	0.2	2.6	43,280,108	0.2
17. 寄附金	3,607,414,116	13.6	12.8	3,199,307,811	12.9
18. 繰入金	3,195,900,204	12.1	84.6	1,731,420,133	7.0
19. 繰越金	1,813,097,429	6.9	145.3	739,003,867	3.0
20. 諸収入	322,366,578	1.2	9.4	294,577,598	1.2
21. 市債	720,376,000	2.7	△ 47.7	1,377,876,000	5.6
歳入合計	26,465,564,579	100.0	6.9	24,760,594,541	100.0

第5表

一般会計款別歳出状況表

(単位：円，%)

区分 科目(款)	予算現額	支出済額	翌年度 繰越額	不用額	支出済額 の構成比	執行率
1. 議会費	170,446,000	166,024,876	0	4,421,124	0.7	97.4
2. 総務費	4,314,263,000	4,070,871,525	1,628,000	241,763,475	16.7	94.4
3. 民生費	6,676,700,200	6,337,372,402	13,002,000	326,325,798	26.0	94.9
4. 衛生費	1,815,575,640	1,519,754,960	0	295,820,680	6.2	83.7
5. 労働費	51,904,000	51,242,889	0	661,111	0.2	98.7
6. 農林水産業費	849,815,320	680,622,432	145,800,000	23,392,888	2.8	80.1
7. 商工費	755,773,000	702,461,265	0	53,311,735	2.9	92.9
8. 土木費	2,000,519,032	1,751,036,257	192,109,455	57,373,320	7.2	87.5
9. 消防費	771,675,815	764,577,825	0	7,097,990	3.1	99.1
10. 教育費	1,717,312,740	1,660,999,077	1,250,000	55,063,663	6.8	96.7
11. 災害復旧費	1,454,000	288,420	0	1,165,580	0.0	19.8
12. 公債費	2,567,169,000	2,566,802,974	0	366,026	10.5	100.0
13. 諸支出金	4,167,486,000	4,145,284,167	0	22,201,833	17.0	99.5
14. 予備費	66,069,485	0	0	66,069,485	0.0	0.0
歳出合計	25,926,163,232	24,417,339,069	353,789,455	1,155,034,708	100.0	94.2

第6表

一般会計歳出決算額比較表

(単位：円，%)

科目(款) / 区分	令和4年度	構成比	対前年度比較 増減率	令和3年度	構成比
1. 議会費	166,024,876	0.7	4.7	158,641,602	0.7
2. 総務費	4,070,871,525	16.7	38.4	2,940,380,492	12.8
3. 民生費	6,337,372,402	26.0	△ 1.8	6,453,794,812	28.1
4. 衛生費	1,519,754,960	6.2	△ 4.3	1,588,359,740	6.9
5. 労働費	51,242,889	0.2	17.1	43,764,513	0.2
6. 農林水産業費	680,622,432	2.8	3.5	657,656,440	2.9
7. 商工費	702,461,265	2.9	13.9	616,931,067	2.7
8. 土木費	1,751,036,257	7.2	△ 33.2	2,621,154,318	11.4
9. 消防費	764,577,825	3.1	0.7	759,402,348	3.3
10. 教育費	1,660,999,077	6.8	13.1	1,468,138,006	6.4
11. 災害復旧費	288,420	0.0	△ 98.1	14,873,190	0.1
12. 公債費	2,566,802,974	10.5	3.9	2,471,416,181	10.8
13. 諸支出金	4,145,284,167	17.0	31.5	3,152,984,403	13.7
14. 予備費	0	0.0	0.0	0	0.0
歳出合計	24,417,339,069	100.0	6.4	22,947,497,112	100.0

(2) 歳 入

歳入決算額を款別に見ると、次のとおりである。

第1款 市税

調定額4,334,833,191円に対して、収入済額は4,197,452,931円であり、調定額に対する収入率は96.8%であった。市税収入額が歳入総額に占める割合は、15.9%であった。

市税収入額の内訳は、個人市民税1,660,063,351円、法人市民税145,168,900円、固定資産税1,791,782,621円、都市計画税204,354,617円などである。

不納欠損額は12,278,810円で、前年度に比べると2,013,771円減少している。

なお、税目別の不納欠損状況は、次表のとおりである。

税目別不納欠損状況

(単位：円)

科目(項) \ 年度	令和4年度	令和3年度
市 民 税	1,570,293	2,686,977
固 定 資 産 税	8,479,374	9,241,191
都 市 計 画 税	1,245,143	1,328,713
軽 自 動 車 税	984,000	1,035,700
合 計	12,278,810	14,292,581

第2款 地方譲与税

予算現額152,841,000円に対し、収入済額は161,267,000円で、前年度と比べると319,000円(0.2%)の増となっている。

第3款 利子割交付金

予算現額1,100,000円に対し、収入済額は1,595,000円で、前年度と比べると1,377,000円(46.3%)の減となっている。

第4款 配当割交付金

予算現額13,000,000円に対し、収入済額は19,570,000円で、前年度と比べると1,528,000円(7.2%)の減となっている。

第5款 株式等譲渡所得割交付金

予算現額17,000,000円に対し、収入済額は17,016,000円で、前年度と比べると10,359,000円(37.8%)の減となっている。

第6款 法人事業税交付金

予算現額43,000,000円に対し、収入済額は55,543,000円で、前年度と比べると22,560,000円(68.4%)の増となっている。

第7款 地方消費税交付金

予算現額750,000,000円に対し、収入済額は819,972,000円で、前年度と比べると18,161,000円（2.3%）の増となっている。

第8款 環境性能割交付金

予算現額16,200,000円に対し、収入済額は18,235,000円であり、前年度と比べると3,716,000円（25.6%）の増となっている。

第9款 地方特例交付金

予算現額25,000,000円に対し、収入済額は33,239,000円で、前年度と比べると52,444,000円（61.2%）の減となっている。

第10款 地方交付税

予算現額5,809,115,000円に対し、収入済額は6,259,165,000円で、前年度と比べると211,650,000円（3.3%）の減となっている。

第11款 交通安全対策特別交付金

予算現額3,400,000円に対し、収入済額は2,646,000円で、前年度と比べると425,000円（13.8%）の減となっている。

第12款 分担金及び負担金

予算現額181,545,000円に対し、収入済額は168,033,973円で、前年度と比べると111,295,215円（39.8%）の減となっている。

負担金の主なものは、老人保護措置負担金・公立保育所保護者負担金などの民生費負担金60,919,374円、畑かん賦課金などの農林水産業費負担金5,580,500円、小中学校給食費負担金などの教育費負担金99,033,835円などである。

なお、収入未済額は7,522,313円となっており、主なものは児童福祉費負担金、農業費負担金などである。

第13款 使用料及び手数料

予算現額264,781,000円に対し、収入済額は268,111,649円で、前年度と比べると7,741,179円（2.8%）の減となっている。内訳は、使用料185,026,999円、手数料83,084,650円となっている。

なお、収入未済額85,996,210円の主なものは、住宅使用料である。

第14款 国庫支出金

予算現額3,695,453,762円に対し、収入済額は3,496,924,133円で、前年度と比べると505,443,033円（12.6%）の減となっている。内訳は、国庫負担金1,797,431,699円、国庫補助金1,670,596,967円、国庫委託金28,895,467円である。

第15款 県支出金

予算現額1,322,651,000円に対し、収入済額は1,243,233,988円で、前年度と比べると112,310,850円（9.9%）の増となっている。内訳は、県負担金719,091,723円、県補助金441,165,328円、県委託金82,976,937円である。

第16款 財産収入

予算現額39,532,000円に対し、収入済額は44,405,578円で、前年度と比べると1,125,470円（2.6%）の増となっている。内訳は、財産運用収入15,835,723円、財産売払収入28,569,855円である。

第17款 寄附金

予算現額3,408,200,000円に対し、収入済額は3,607,414,116円で、前年度と比べると408,106,305円（12.8%）の増となっている。内訳は、一般寄附金15,355,903円、ふるさと納税寄附金が3,590,058,213円、指定寄附金2,000,000円である。

第18款 繰入金

予算現額3,223,799,000円に対し、収入済額は3,195,900,204円となっており、前年度と比べると1,464,480,071円（84.6%）の増となっている。内訳の主なものは、基金繰入金3,195,814,204円である。

第19款 繰越金

予算現額1,813,096,470円に対し、収入済額は1,813,097,429円となっており、前年度と比べると1,074,093,562円（145.3%）の増となっている。

第20款 諸収入

予算現額317,372,000円に対し、収入済額は322,366,578円で、前年度と比べると27,788,980円（9.4%）の増となっている。内訳の主なものは、貸付金元利収入115,007,832円、雑入177,812,493円である。

第21款 市債

予算現額863,776,000円に対し、収入済額は720,376,000円で、前年度と比べると657,500,000円（47.7%）の減となっている。内訳の主なものは、土木債249,800,000円、歳入補てん債138,600,000円、過疎対策事業債141,200,000円である。

市債が歳入総額に占める比率は2.7%となっている。

(3) 歳 出

歳出決算額を款別に見ると、次のとおりである。

第1款 議会費

予算現額170,446,000円に対し、支出済額は166,024,876円で、執行率は97.4%であった。不用額は4,421,124円である。

支出の主なものとは人件費で、支出済額の92.8%である。

第2款 総務費

総務費の項別執行状況は、次表のとおりである。

(単位：円，%)

区 分	予算現額	支出済額	執行率	翌年度繰越額	不用額
1. 総務管理費	3,896,444,000	3,677,736,993	94.4	1,628,000	217,079,007
2. 徴税費	211,879,000	204,499,021	96.5	0	7,379,979
3. 戸籍住民基本台帳費	141,589,000	129,997,276	91.8	0	11,591,724
4. 選挙費	54,461,000	50,531,388	92.8	0	3,929,612
5. 統計調査費	3,049,000	1,920,898	63.0	0	1,128,102
6. 監査委員費	6,841,000	6,185,949	90.4	0	655,051
合 計	4,314,263,000	4,070,871,525	94.4	1,628,000	241,763,475

予算現額4,314,263,000円に対し、支出済額は4,070,871,525円で、執行率は94.4%であった。不用額は241,763,475円である。

第3款 民生費

民生費の項別執行状況は、次表のとおりである。

(単位：円，%)

区 分	予算現額	支出済額	執行率	翌年度繰越額	不用額
1. 社会福祉費	4,020,239,200	3,799,117,309	94.5	0	221,121,891
2. 児童福祉費	2,228,604,000	2,136,567,839	95.9	13,002,000	79,034,161
3. 生活保護費	410,583,000	384,753,349	93.7	0	25,829,651
4. 国民年金事務取扱費	17,164,000	16,933,905	98.7	0	230,095
5. 災害救助費	110,000	0	0.0	0	110,000
合 計	6,676,700,200	6,337,372,402	94.9	13,002,000	326,325,798

予算現額6,676,700,200円に対し、支出済額は6,337,372,402円で、執行率は94.9%であった。不用額は326,325,798円である。

第4款 衛生費

衛生費の項別執行状況は、次表のとおりである。

(単位：円，%)

区 分	予算現額	支出済額	執行率	翌年度繰越額	不用額
1. 保健衛生費	1,439,504,640	1,146,106,375	79.6	0	293,398,265
2. 清掃費	376,071,000	373,648,585	99.4	0	2,422,415
合 計	1,815,575,640	1,519,754,960	83.7	0	295,820,680

予算現額1,815,575,640円に対し、支出済額は1,519,754,960円で、執行率は83.7%であった。不用額は295,820,680円である。

第5款 労働費

予算現額51,904,000円に対し、支出済額は51,242,889円で、執行率は98.7%であった。不用額は661,111円である。

第6款 農林水産業費

農林水産業費の項別執行状況は、次表のとおりである。

(単位：円，%)

区 分	予算現額	支出済額	執行率	翌年度繰越額	不用額
1. 農業費	742,122,320	578,458,506	77.9	145,800,000	17,863,814
2. 林業費	79,715,000	75,780,476	95.1	0	3,934,524
3. 市有林管理費	9,479,000	8,549,406	90.2	0	929,594
4. 国土調査費	18,499,000	17,834,044	96.4	0	664,956
合 計	849,815,320	680,622,432	80.1	145,800,000	23,392,888

予算現額849,815,320円に対し、支出済額は680,622,432円で、執行率は80.1%であった。不用額は23,392,888円である。農業費の翌年度繰越額は、県営土地改良事業費である。

第7款 商工費

予算現額755,773,000円に対し、支出済額は702,461,265円で、執行率は92.9%であった。不用額は53,311,735円である。

第8款 土木費

土木費の項別執行状況は、次表のとおりである。

(単位：円，%)

区 分	予算現額	支出済額	執行率	翌年度繰越額	不用額
1. 土木管理費	68,056,000	64,949,612	95.4	1,750,000	1,356,388
2. 道路橋梁費	514,515,700	371,003,662	72.1	111,684,522	31,827,516
3. 河川費	14,777,000	14,336,117	97.0	0	440,883
4. 都市計画費	1,317,406,332	1,223,360,026	92.9	78,674,933	15,371,373
5. 住宅費	85,764,000	77,386,840	90.2	0	8,377,160
合 計	2,000,519,032	1,751,036,257	87.5	192,109,455	57,373,320

予算現額2,000,519,032円に対し、支出済額は1,751,036,257円で、執行率は87.5%であった。不用額は57,373,320円である。翌年度繰越額の主なものは、道路維持費、道路建設改良費、山梨市駅南地域整備事業費等である。

第9款 消防費

予算現額771,675,815円に対し、支出済額は764,577,825円で、執行率は99.1%であった。不用額は7,097,990円である。

第10款 教育費

教育費の項別執行状況は、次表のとおりである。

(単位：円，%)

区 分	予算現額	支出済額	執行率	翌年度繰越額	不用額
1. 教育総務費	323,270,470	313,761,936	97.1	1,250,000	8,258,534
2. 小学校費	220,193,000	211,811,349	96.2	0	8,381,651
3. 中学校費	129,461,000	121,958,671	94.2	0	7,502,329
4. 幼稚園費	56,258,000	53,590,600	95.3	0	2,667,400
5. 社会教育費	446,519,270	433,427,054	97.1	0	13,092,216
6. 保健体育費	541,611,000	526,449,467	97.2	0	15,161,533
合 計	1,717,312,740	1,660,999,077	96.7	1,250,000	55,063,663

予算現額1,717,312,740円に対し、支出済額は1,660,999,077円で、執行率は96.7%であった。不用額は55,063,663円で、教育総務費の翌年度繰越額は、教育委員会費である。

第11款 災害復旧費

災害復旧費の項別執行状況は、次表のとおりである。

(単位：円，%)

区 分	予算現額	支出済額	執行率	翌年度繰越額	不用額
1. 農林施設災害復旧費	400,000	66,000	16.5	0	334,000
2. 公共土木施設災害復旧費	1,054,000	222,420	21.1	0	831,580
合 計	1,454,000	288,420	19.8	0	1,165,580

予算現額1,454,000円に対し、支出済額は288,420円で、執行率は19.8%であった。不用額は1,165,580円である。

第12款 公債費

予算現額2,567,169,000円に対し、支出済額は2,566,802,974円で、執行率は99.9%であった。不用額は366,026円である。

第13款 諸支出金

諸支出金の項は基金費だけである。予算現額4,167,486,000円に対し、支出済額は4,145,284,167円で、執行率は99.5%であった。不用額は22,201,833円である。

第14款 予備費

予備費の執行については緊急的なものへの充用はあるが、予算現額66,069,485円は未執行であった。

3 特別会計

(1)国民健康保険特別会計

平成30年度の国民健康保険制度改正により、県が財政運営の主体となっている。

歳入

(単位：円，%)

区 分	令和4年度	令和3年度	対前年度比較	
			増減額	比率
予 算 現 額	4,539,643,000	4,585,375,000	△ 45,732,000	99.0
調 定 額	4,337,720,543	4,649,249,439	△ 311,528,896	93.3
収 入 済 額	4,171,638,532	4,458,121,676	△ 286,483,144	93.6
不 納 欠 損 額	13,102,484	16,600,325	△ 3,497,841	78.9
収 入 未 済 額	152,979,527	174,527,438	△ 21,547,911	87.7

歳入決算額は、4,171,638,532円で、前年度に比べ286,483,144円の減であり、調定額4,337,720,543円に対する収入率は96.2%となっている。

歳入の内、国民健康保険税（次頁表参照）を見ると、令和4年度の収入率は85.6%となっている。収入率は、令和3年度と比較すると2.1%の増、不納欠損額は13,102,484円で、令和3年度と比較すると3,497,841円減少した。

歳入の款別の決算状況は、次のとおりである。

(単位：円、%)

区 科目(款)	予算現額	調定額	収入済額	不納欠損額	収入未済額	予算現額と収入 済額との比較	対予算現額		対調定 収入率	収入済 額の構 成比
							調定率	収入率		
1.国民健康保 険税	867,541,000	1,150,849,363	984,825,610	13,102,484	152,921,269	117,284,610	132.7	113.5	85.6	23.6
2.使用料及び 手数料	400,000	441,350	441,350	0	0	41,350	110.3	110.3	100.0	0.1
3.国庫支出金	1,000	20,000	20,000	0	0	19,000	2,000.0	2,000.0	100.0	0.0
4.県支出金	3,287,391,000	2,813,496,933	2,813,496,933	0	0	△ 473,894,067	85.6	85.6	100.0	67.4
5.財産収入	1,000	100,762	100,762	0	0	99,762	10,076.2	10,076.2	100.0	0.0
6.繰入金	285,754,000	273,375,741	273,375,741	0	0	△ 12,378,259	95.7	95.7	100.0	6.6
7.繰越金	91,533,000	91,533,353	91,533,353	0	0	353	100.0	100.0	100.0	2.2
8.諸収入	7,022,000	7,903,041	7,844,783	0	58,258	822,783	112.5	111.7	99.3	0.2
歳入合計	4,539,643,000	4,337,720,543	4,171,638,532	13,102,484	152,979,527	△ 368,004,468	95.6	91.9	96.2	100.0

歳入の主なものは、国民健康保険税984,825,610円(構成比23.6%)、県支出金2,813,496,933円(構成比67.4%)である。これを前年度と比較すると、国民健康保険税19,610,054円(2.0%)増加、県支出金284,524,022円(9.2%)減少となっている。なお、制度改正により歳出の保険給付費は、平成30年度から、県支出金として交付されている。

歳 出

歳出の款別の決算状況は、次のとおりである。

(単位：円，%)

区分 科目(款)	予算現額	支出済額 A	構成比	翌年度 繰越額	不用額	執行率	令和3年度 支出済額 B	対前年度比較	
								増減額 A-B	比率 A/B
1. 総務費	58,573,000	52,505,511	1.3	0	6,067,489	89.6	54,108,949	△ 1,603,438	97.0
2. 保険給付費	3,211,661,000	2,732,878,204	67.7	0	478,782,796	85.1	3,037,591,705	△ 304,713,501	90.0
3. 国民健康保険 事業費納付金	1,149,080,000	1,149,078,650	28.5	0	1,350	100.0	1,160,564,529	△ 11,485,879	99.0
4. 共同事業拠出金	2,000	117	0.0	0	1,883	5.9	59	58	198.3
5. 保健事業費	63,206,000	53,001,498	1.3	0	10,204,502	83.9	54,827,081	△ 1,825,583	96.7
6. 基金積立金	42,271,000	42,000,000	1.0	0	271,000	99.4	50,000,000	△ 8,000,000	84.0
7. 諸支出金	10,245,000	8,523,438	0.2	0	1,721,562	83.2	9,496,000	△ 972,562	89.8
8. 予備費	4,605,000	0	0.0	0	4,605,000	0.0	0	0	—
歳出合計	4,539,643,000	4,037,987,418	100.0	0	501,655,582	88.9	4,366,588,323	△ 328,600,905	92.5

歳出は、予算現額4,539,643,000円に対し、歳出決算額は4,037,987,418円で、執行率は88.9%であった。これを前年度決算額と比べると328,600,905円(7.5%)の減少となっている。

保険給付費は2,732,878,204円(構成比67.7%)で、前年度と比べると304,713,501円(10.0%)の減少、国民健康保険事業費納付金は1,149,078,650円で、前年度と比べると11,485,879円(1.0%)の減少となっている。

(2) 後期高齢者医療特別会計

当会計は、平成20年度に新たに設けられた特別会計である。

令和4年度の決算状況は、予算現額533,175,000円に対し、決算額は収入済額が527,690,494円、支出済額が525,950,825円となり、歳入歳出差引額は1,739,669円であった。

歳入

歳入の款別の決算状況は、次のとおりである。

(単位：円，%)

区分 科目(款)	予算現額	調定額	収入済額 A	不納欠損額	収入未済額	収入済額の 構成比	対予算現 額調定率	令和3年度 収入済額 B	対前年度比較	
									増減額 A-B	比率 A/B
1. 後期高齢者 医療保険料	409,143,000	409,918,439	406,812,812	282,460	2,823,167	77.1	100.2	375,432,453	31,380,359	108.4
2. 使用料及び 手数料	11,000	70,200	70,200	0	0	0.0	638.2	65,200	5,000	107.7
3. 繰入金	114,912,000	112,910,172	112,910,172	0	0	21.4	0.0	109,042,202	3,867,970	103.5
4. 繰越金	1,730,000	1,730,920	1,730,920	0	0	0.3	100.1	549,510	1,181,410	315.0
5. 諸収入	7,379,000	6,166,390	6,166,390	0	0	1.2	83.6	4,841,460	1,324,930	315.0
歳入合計	533,175,000	530,796,121	527,690,494	282,460	2,823,167	100.0	99.6	489,930,825	37,759,669	107.7

歳入の主なものは、後期高齢者医療保険料が406,812,812円(構成比77.1%)で、前年度に比べ31,380,359円(8.4%)の増加、繰入金が112,910,172円(構成比21.4%)で、前年度に比べ3,867,970円(3.5%)の増加であった。

収入済額が前年度比で増加している要因としては、令和4年10月より、後期高齢者医療被保険者の負担割合の変更に伴う保険料の増加などの影響が考えられる。

歳出

歳出の款別の決算状況は、次のとおりである。

(単位：円，%)

区分 科目(款)	予算現額	支出済額 A	支出済額の 構成比	翌年度 繰越額	不用額	執行率	令和3年度 支出済額 B	対前年度比較	
								増減額 A-B	比率 A/B
1. 総務費	5,853,000	4,942,033	0.9	0	910,967	84.4	4,502,164	439,869	109.8
2. 後期高齢者医療 広域連合納付金	510,735,000	506,665,355	96.3	0	4,069,645	99.2	472,236,907	34,428,448	107.3
3. 保健事業費	15,289,000	14,009,347	2.3	0	1,279,653	91.6	10,878,974	3,130,373	128.8
4. 諸支出金	1,198,000	334,090	0.1	0	863,910	27.9	581,860	△ 247,770	57.4
5. 予備費	100,000	0	0.0	0	100,000	0.0	0	0	—
歳出合計	533,175,000	525,950,825	100.0	0	7,224,175	98.6	488,199,905	37,750,920	107.7

歳出の主なものは、後期高齢者医療広域連合納付金が506,665,355円(構成比96.3%)で、前年度に比べ34,428,448円(7.3%)の増加であった。

(3) 交通・火災災害共済事業特別会計

令和4年度の決算状況は、予算現額18,386,000円に対し、決算額は収入済額が10,711,003円（前年度に比べ322,831円、2.9%の減）、支出済額が7,064,391円（前年度に比べ598,140円、9.3%の増）となり、歳入歳出差引額は3,646,612円であった。

歳入

歳入の款別の決算状況は、次のとおりである。

(単位：円，%)

区分 科目(款)	予算現額	調定額	収入済額 A	不 納 欠 損 額	収 入 未 済 額	収入済額 の構成比	対予算 現額調 定率	令和3年度 収入済額 B	対前年度比較	
									増減額 A-B	比率 A/B
1. 共済会費収入	11,000,000	10,707,000	10,707,000	0	0	99.9	97.3	11,028,500	△ 321,500	97.1
2. 繰入金	7,356,000	0	0	0	0	0.0	0.0	0	0	—
3. 諸収入	30,000	4,003	4,003	0	0	0.1	13.3	5,334	△ 1,331	75.0
歳入合計	18,386,000	10,711,003	10,711,003	0	0	100.0	58.3	11,033,834	△ 322,831	97.1

歳入の主なものは、共済会費収入が10,707,000円（構成比99.9%）で、前年度に比べ321,500円（2.9%）の減少であった。

歳出

歳出の款別の決算状況は、次のとおりである。

(単位：円，%)

区分 科目(款)	予算現額	支出済額 A	支出済額 の構成比	翌年度 繰越額	不用額	執行率	令和3年度 支出済額 B	対前年度比較	
								増減額 A-B	比率 A/B
1. 共済事業費	18,156,000	7,060,388	99.9	0	11,095,612	38.9	6,460,917	599,471	109.3
2. 基金積立金	30,000	4,003	0.1	0	25,997	13.3	5,334	△ 1,331	75.0
3. 予備費	200,000	0	0.0	0	200,000	0.0	0	0	—
歳出合計	18,386,000	7,064,391	100.0	0	11,321,609	38.4	6,466,251	598,140	109.3

歳出の主なものは、共済事業費が7,060,388円（構成比99.9%）で、前年度に比べ599,471円（9.3%）の増加であった。

令和4年度の交通・火災災害共済事業の加入者数は21,414人、加入率は63.5%であった。

災害見舞金の支給状況は、次表のとおりである。

交通災害見舞金支給状況

傷害の程度	見舞金	件数	支給見舞金
1等級（死亡）	1,000,000円	0	0円
2等級（治療日数 240日以上）	218,000円	0	0円
3等級（ " 180日～239日）	164,000円	1	164,000円
4等級（ " 120日～179日）	101,000円	5	505,000円
5等級（ " 90日～119日）	76,000円	1	76,000円
6等級（ " 60日～89日）	51,000円	14	714,000円
7等級（ " 30日～59日）	39,000円	29	1,131,000円
8等級（ " 15日～29日）	26,000円	8	208,000円
9等級（ " 1日～14日）	20,000円	19	380,000円
特別見舞金（一定以上の後遺障害）	313,000円	0	0円
葬祭費用 <small>（無免許運転などにより見舞金を支給できない死亡事故の場合に支払）</small>	250,000円	0	0円
合 計		77	3,178,000円
入院加算金	入院日数により10,000円～100,000円	11	430,000円

火災災害見舞金支給状況

等 級	件数	支給見舞金
1等級（全 焼）500,000円＋会員一人当たり 25,000円	2	1,100,000円
2等級（半 焼）200,000円＋会員一人当たり 10,000円	0	0円
3等級（部分焼）100,000円＋会員一人当たり 5,000円	2	220,000円
特別見舞金 死亡者が出た場合、その世帯に 300,000円	0	0円
合 計	4	1,320,000円

(4) 浄化槽事業特別会計

令和4年度の決算状況は、予算現額59,759,000円に対し、決算額は収入済額・支出済額ともに58,481,078円で、歳入歳出差引額は0円であった。市町村設置型浄化槽整備事業が令和3年度末で終了したことに伴い、令和4年度予算から、新規整備費（歳入：国庫支出金及び市債、歳出：事業費）が皆減したことから、収入済額・支出済額ともに前年度に比べ9,281,052円（13.7%）の減少となった。

歳入

歳入の款別の決算状況は、次のとおりである。

(単位：円，%)

	予算現額	調定額	収入済額 A	不納欠損額	収入未済額	収入済額の 構成比	対予算 現額調 定率		令和3年度 収入済額 B	対前年度比較	
										増減額 A-B	比率 A/B
1. 分担金及び負担金	105,000	60,000	15,000	0	45,000	0.0	57.1	1. 分担金及び負担金	670,000	△ 655,000	2.2
2. 使用料及び手数料	25,833,000	27,738,759	27,025,633	0	713,126	46.2	107.4	2. 使用料及び手数料	27,032,143	△ 6,510	100.0
								3. 国庫支出金	2,564,000	△ 2,564,000	0.0
3. 繰入金	33,232,000	30,852,366	30,852,366	0	0	52.8	92.8	4. 繰入金	32,357,267	△ 1,504,901	95.3
4. 繰越金	1,000	0	0	0	0	0.0	0.0	5. 繰越金	0	0	—
5. 諸収入	588,000	588,079	588,079	0	0	1.0	100.0	6. 諸収入	338,720	249,359	—
								7. 市債	4,800,000	△ 4,800,000	0.0
歳入合計	59,759,000	59,239,204	58,481,078	0	758,126	100.0	99.1	歳入合計	67,762,130	△ 9,281,052	86.3

歳入の主なものは、一般会計からの繰入金が30,852,366円（構成比52.8%）で、前年度に比べ1,504,901円（4.7%）の減少、使用料及び手数料が27,025,633円（構成比46.2%）で、前年度に比べ6,510円（0.1%）の減少であった。また、分担金及び負担金で45,000円が、使用料及び手数料で713,126円が収入未済額となっている。

なお、令和4年度より、国庫支出金及び市債が廃止となった。

歳出

歳出の款別の決算状況は、次のとおりである。

(単位：円，%)

	予算現額	支出済額 A	支出済額の 構成比	翌年度繰 越額	不用額	執行率		令和3年度 支出済額 B	対前年度比較	
									増減額 A-B	比率 A/B
1. 総務費	39,603,000	38,428,344	65.7	0	1,174,656	97.0	1. 総務費	38,380,533	47,811	100.1
							2. 事業費	9,487,500	△ 9,487,500	0.0
2. 公債費	20,056,000	20,052,734	34.3	0	3,266	100.0	3. 公債費	19,894,097	158,637	100.8
3. 予備費	100,000	0	0.0	0	100,000	0.0	4. 予備費	0	0	—
歳出合計	59,759,000	58,481,078	100.0	0	1,277,922	97.9	歳出合計	67,762,130	△ 9,281,052	86.3

歳出は、総務費が38,428,344円（構成比65.7%）で、前年度に比べ47,811円（0.1%）の増加、公債費が20,052,734円（構成比34.3%）で、前年度に比べ158,637円（0.8%）の増加であった。

また、令和4年度より、事業費が廃止となっている。

(5) 介護保険特別会計

令和4年度の決算状況は、予算現額4,176,448,000円に対し、決算額は収入済額が4,284,364,657円（前年度に比べ22,118,928円、0.5%の減）、支出済額は4,037,025,627円（前年度に比べ121,916,200円、2.9%の減）となり、歳入歳出差引額は247,339,030円であった。

歳入

歳入の款別の決算状況は、次のとおりである。

(単位：円、%)

区分 科目(款)	予算現額	調定額	収入済額 A	不納欠損額	収入未済額	収入済 額の構 成比	対予算 現額調 定率	令和3年度 収入済額 B	対前年度比較	
									増減額 A-B	比率 A/B
1. 保険料	830,467,000	877,578,183	839,985,042	26,425,016	11,168,125	19.6	105.7	834,975,817	5,009,225	100.6
2. 分担金及び 負担金	153,000	128,100	128,100	0	0	0.0	83.7	118,800	9,300	107.8
3. 使用料及び 手数料	80,000	68,900	68,900	0	0	0.0	86.1	53,700	15,200	128.3
4. 国庫支出金	944,627,000	1,024,782,928	1,024,782,928	0	0	23.9	108.5	1,046,266,536	△ 21,483,608	97.9
5. 支払基金交 付金	1,021,573,000	1,018,234,002	1,018,234,002	0	0	23.8	99.7	1,053,892,800	△ 35,658,798	96.6
6. 県支出金	552,986,000	589,103,736	589,103,736	0	0	13.8	106.5	586,379,951	2,723,785	100.5
7. 財産収入	2,000	1,423	1,423	0	0	0.0	71.2	1,023	400	139.1
8. 繰入金	679,012,000	664,048,415	664,048,415	0	0	15.5	97.8	661,385,255	2,663,160	100.4
9. 繰越金	147,541,000	147,541,758	147,541,758	0	0	3.4	100.0	123,004,066	24,537,692	119.9
10. 諸収入	7,000	470,353	470,353	0	0	0.1	6,719.3	405,637	64,716	116.0
歳入合計	4,176,448,000	4,321,957,798	4,284,364,657	26,425,016	11,168,125	100.0	103.5	4,306,483,585	△ 22,118,928	99.5

歳入の主なものは、保険料が839,985,042円（構成比19.6%）で、前年度に比べ5,009,225円（0.6%）の増加、国庫支出金が1,024,782,928円（構成比23.9%）で、21,483,608円（2.1%）の減少、支払基金交付金が1,018,234,002円（構成比23.8%）で、前年度に比べ35,658,798円（3.4%）の減少、繰入金が664,048,415円（構成比15.5%）で、前年度に比べ2,663,160円（0.4%）の増加であった。

なお、保険料で26,425,016円が不納欠損額、11,168,125円が収入未済額となっている。

歳出

歳出の款別の決算状況は、次のとおりである。

(単位：円，%)

区 科目(款)	予算現額	支出済額 A	支出済額 の構成比	翌年度繰 越額	不用額	執行率	令和3年度 支出済額 B	対前年度比較	
								増減額 A-B	比率 A/B
1. 総務費	144,791,000	140,510,721	3.5	0	4,280,279	97.0	122,275,246	18,235,475	114.9
2. 保険給付費	3,718,735,000	3,629,669,763	89.9	0	89,065,237	97.6	3,789,050,440	△ 159,380,677	95.8
3. 地域支援事業費	129,823,000	118,643,832	2.9	0	11,179,168	91.4	124,532,925	△ 5,889,093	95.3
4. 基金積立金	116,011,000	81,876,085	2.0	0	34,134,915	70.6	50,119,000	31,757,085	163.4
5. 諸支出金	66,588,000	66,325,226	1.6	0	262,774	99.6	72,964,216	△ 6,638,990	90.9
6. 予備費	500,000	0	0.0	0	500,000	0.0	0	0	—
歳出合計	4,176,448,000	4,037,025,627	100.0	0	139,422,373	96.7	4,158,941,827	△ 121,916,200	97.1

歳出の主なものは、総務費が140,510,721円（構成比3.5%）で、前年度に比べ18,235,475円（14.9%）の増加、保険給付費が3,629,669,763円（構成比89.9%）で、前年度に比べ159,380,677円（4.2%）の減少、地域支援事業費が118,643,832円（構成比2.9%）で、前年度に比べ5,889,093円（4.7%）の減少、諸支出金が66,325,226円（構成比1.6%）で、前年度に比べ6,638,990円（9.1%）の減少であった。

(6) 居宅介護予防支援事業特別会計

令和4年度の決算状況は、予算現額14,735,000円に対し、決算額は収入済額、支出済額ともに14,405,713円で、歳入歳出差引額は0円であった。収入済額、支出済額ともに前年度に比べ344,873円(2.3%)の減少となった。

歳入

歳入の款別の決算状況は、次のとおりである。

(単位：円，%)

区分 科目(款)	予算現額	調定額	収入済額 A	不納欠損額	収入済額 の構成比	対予算現 額調定率	令和3年度 収入済額 B	対前年度比較	
								増減額 A-B	比率 A/B
1. サービス収入	8,608,000	8,649,960	8,649,960	0	60.0	100.5	9,217,840	△ 567,880	93.8
2. 繰入金	6,127,000	5,755,753	5,755,753	0	40.0	93.9	5,532,746	223,007	104.0
歳入合計	14,735,000	14,405,713	14,405,713	0	100.0	97.8	14,750,586	△ 344,873	97.7

歳入は、サービス収入が8,649,960円(構成比60.0%)で、前年度に比べ567,880円(6.2%)の減少、一般会計からの繰入金が5,755,753円(構成比40.0%)で、前年度に比べ223,007円(4.0%)の増加であった。

歳出

歳出の款別の決算状況は、次のとおりである。

(単位：円，%)

区分 科目(款)	予算現額	支出済額 A	支出済額 の構成比	翌年度 繰越額	不用額	執行率	令和3年度 支出済額 B	対前年度比較	
								増減額 A-B	比率 A/B
1. 総務費	6,707,000	6,596,443	45.8	0	110,557	98.4	6,258,246	338,197	105.4
2. 事業費	7,978,000	7,809,270	54.2	0	168,730	97.9	8,492,340	△ 683,070	92.0
3. 予備費	50,000	0	0.0	0	50,000	0.0	0	0	—
歳出合計	14,735,000	14,405,713	100.0	0	329,287	97.8	14,750,586	△ 344,873	97.7

歳出は、総務費が6,596,443円(構成比45.8%)で、前年度に比べ338,197円(5.4%)の増加、事業費(居宅サービス事業費)が7,809,270円(構成比54.2%)で、前年度に比べ638,070円(8.0%)の減少であった。

(7) 活性化事業特別会計

令和4年度の決算状況は、予算現額106,502,000円に対し、決算額は収入済額が96,510,685円（前年度に比べ26,503,578円、37.9%の増）、支出済額が94,629,685円（前年度に比べ24,622,578円、35.2%の増）となり、歳入歳出差引額は1,881,000円であった。

歳入

歳入の款別の決算状況は、次のとおりである。

区分 科目(款)	予算現額	調定額	収入済額 A	不 納 欠 損 額	収 入 未 済 額	収入済 額の構 成比	対予算 現額調 定率	令和3年度 収入済額 B	対前年度比較	
									増減額 A-B	比率 A/B
1. 使用料及び 手数料	19,153,000	21,498,096	21,498,096	0	0	22.3	112.2	15,746,645	5,751,451	136.5
2. 繰入金	81,549,000	68,647,153	68,647,153	0	0	71.1	84.2	50,541,219	18,105,934	135.8
3. 諸収入	5,800,000	6,365,436	6,365,436	0	0	6.6	109.7	3,719,243	2,646,193	171.1
歳入合計	106,502,000	96,510,685	96,510,685	0	0	100.0	90.6	70,007,107	26,503,578	137.9

歳入は、使用料及び手数料が21,498,096円（構成比22.3%）で、前年度に比べ5,751,451円（36.5%）の増加、一般会計からの繰入金が68,647,153円（構成比71.1%）で、前年度に比べ18,105,934円（35.8%）の増加、諸収入が6,365,436円（構成比6.6%）で、前年度に比べ2,646,193円（71.1%）の増加であった。

歳出

歳出の款別の決算状況は、次のとおりである。

区分 科目(款)	予算現額	支出済額 A	支出済額 の構成比	翌年度 繰越額	不用額	執行率	令和3年度 支出済額 B	対前年度比較	
								増減額 A-B	比率 A/B
1. 総務費	106,451,000	94,629,685	100.0	1,881,000	9,940,315	88.9	70,007,107	24,622,578	135.2
2. 公債費	1,000	0	0.0	0	1,000	0.0	0	0	—
3. 予備費	50,000	0	0.0	0	50,000	0.0	0	0	—
歳出合計	106,502,000	94,629,685	100.0	1,881,000	9,991,315	88.9	70,007,107	24,622,578	135.2

歳出は、総務費のみで94,629,685円であった。この額を前年度と比べると、24,622,578円（35.2%）の増加となっている。

4 財産に関する調書

財産に関する調書の記載事項、計数を審査した結果、いずれも誤りがないものと認められた。公有財産、物品及び基金に関する決算年度中の増減、年度末現在高は、次のとおりである。

(1) 公有財産

(単位：千円，㎡)

分類	区分	前年度末 現在高	決算年度中 増減高	決算年度末 現在高
土地	本庁舎・学校・公営住宅などの土地	2,543,741.71	2,366.88	2,546,108.59
建物	本庁舎・学校・公営住宅などの建物	193,176.90	△ 1,474.34	191,702.56
有価証券	金銭信託・株券	108,014	0	108,014
出資による権利	出資金・出捐金	79,260	0	79,260

- ①土地 前年度に比べて2,366.88㎡の増加となっている。主なものは、つつじ幼稚園借用地の購入、岩手分団機動部詰所用地の購入などである。
- ②建物 前年度に比べて1,474.34㎡の減少となっており、主なものは、旧牧丘町総合会館の解体に伴う減少である。
- ③有価証券 決算年度中の増減はなく、前年度と同額である。
- ④出資等による権利 決算年度中の増減はなく、前年度と同額である。

(2) 物 品

物品（取得価格50万円以上）の決算年度末現在高は、54品目・321点となっている。

なお、所有物品の中には、取得時における資産価値の高い物品も保有されている。これらの物品に関しても適切に保管・管理するとともに、有効的な活用についても検討されることを望むものである。

また、日頃より使用する消耗品などの貯蔵物品類に関し、購入等に関しても適切に行われていくよう努められたい。

(3) 基金

(単位：㎡)

区 分	前年度末 現在高	決算年度中 増減高	決算年度末
			現在高
不動産 土地	64,337.47	△ 405.94	63,931.53
建 物	816.93	666.17	1,483.10
合 計	65,154.40	260.23	65,414.63

(単位：千円)

区 分	前年度末 現在高	決算年度中 増減高	決算年度末
			現在高
財政調整基金	2,768,368	230	2,768,598
市債管理基金	954,243	111	954,354
地域福祉基金	452,564	0	452,564
土地開発基金	181,684	529,000	710,684
国民健康保険財政調整基金	552,380	42,000	594,380
交通・火災災害共済見舞金支払準備基金	76,053	4,571	80,624
介護保険給付費支払準備基金	106,613	131,994	238,607
中山間地域農村活性化基金	15,546	0	15,546
若者定住促進支援基金	25,920	704	26,624
地域振興基金	1,157,000	0	1,157,000
山梨市太陽光発電施設等整備基金	24,293	2,885	27,178
山梨市ふるさと輝き基金	3,000,689	399,140	3,399,829
子ども笑顔づくり基金	3,505	0	3,505
森林環境譲与税基金	37,881	3,813	41,694
教育ゆめ基金	2,316	1,717	4,033
合 計	9,359,055	1,116,165	10,475,220

・ 土地開発基金

土地開発基金は、地方自治法第241条の規定に基づき、公用若しくは公共用に供する土地、または公共の利益のために取得する必要がある土地をあらかじめ取得し、事業の円滑な執行を図るために設置された基金である。この基金の運用状況を示す書類について審査の結果、計数に誤りがなく、設置目的どおり運用されていた。

運用状況は、次表のとおりである。

区 分	令和4年度末現在高
現 金	710,684 千円
土 地	63,931.53 ㎡

5 審査意見

令和4年度において、本市の最上位計画である「第2次山梨市まちづくり総合計画」は、計画の6年目を迎える。当該計画は、長期ビジョンとして本市の将来像を描き、市民と行政が一体となって「まちづくり」を行うための指針である。更に、計画推進のため市が達成すべき目標やその方法を具体的に示した「中期計画」では、令和4年3月に1年前倒しにより「第2期中期計画」が策定された。地方創生の推進に向けた取り組みに特化した「第2期山梨市総合戦略」、「第2期7つの政策ビジョン」とともに、対象期間の統一もなされたことにより、本市施策方針の明確化や進捗管理の効率化が図られ、集中的な施策推進がなされてきたところである。これらの状況に加え、国による「デジタル田園都市国家構想総合戦略」に基づき、本市においても誰一人取り残されること無く、デジタル化へと進んでいかなければならない。今後も継続した施策の展開に期待するものである。

行政経営においては、戦略的な予算方針により、これまで実施してきた「行財政改革」の取り組みを踏まえ、「成果重視」とすることを明確に位置づけ、行政サービスの質的向上を図るとともに、限られた行政資源を効率的・効果的に活用するために、「事務事業評価」に基づく事業の改善及びスクラップアンドビルドを進め、関係する全ての計画実現のための、歳入の確保や経費の削減はもとより、従来慣例にとらわれることなく、多角的に行政目的を達成するための手法や仕組みを進めている。

更に、令和4年度予算においては、感染拡大防止対策に万全を期すとともに、ウイズコロナを見据えた新たな生活様式等を意識された予算編成が行われ続けているが、世界情勢不安による原油高・物価高騰による多大な影響も相まり、財源の確保に加え、予算執行面においてもこれまでに無い舵取りを求められることとなった。持続可能な財政構造の確立、国・県の支出金を積極的に活用し、歳入の確保を図る中で健全な財政運営を基本に、市民生活に影響をもたらすことがないよう、職員一人ひとりが歳入歳出に係る改革への取り組みを意識し進めていかなければならない。

令和4年度の決算審査の結果は、各会計決算書等は、いずれも関係法令に準拠して作成されており、計数は正確であると認められた。また、予算執行状況についても、適正であると認められた。今後も以下の点に留意し、状況に応じた柔軟かつ積極的な取り組みを図られたい。

(1) 一般会計

◇ 歳入

① 歳入の決算額は26,465,564,579円で、前年度に比べ1,704,970,038円(6.9%)増加している。要因として、ふるさと納税寄附金の大幅な増加や前年度からの繰越金の増加などが見られるが、コロナ対策に加え、原油高・物価高騰対策への対応も迫られる中、これまでの社会情勢以上に先行きの見通しが不透明になっており、財源確保への難しさも増すことが予想される。引き続き、国の動向へも注視しつつ財源確保へ積極的に取り組まれない。

② 歳入決算額に占める市税の収入額は4,197,452,931円で、歳入全体の15.9%を占めており、前年度に比べ132,071,227円(3.2%)増加している。要因として、シャインマスカットの好調による農家収入の増加などがあげられる。

また、調定額に対する収入率は96.8%で、収入未済額は125,101,450円と前年度に比べ15,540,726円減少しており、不納欠損額は12,278,810円と前年度に比べ2,013,771円の減少となっている。引き続き収納率向上に努めるよう積極的に取り組まれない。

市税などの収入未済額については、新システム導入と合わせ、事務の効率化を進める中で、納税者への意識啓発等の強化とあわせ、引き続き未収金の削減に努力されたい。

③ 市税以外の収入未済額の主なものは、公立保育所保護者負担金などの児童福祉費負担金3,591,820円、畑かん賦課金などの農業費負担金1,630,670円、小中学校給食費負担金2,299,823円、住宅使用料85,933,210円などである。

これらについても、公平性の確保と安定的な財源確保を図ることが重要である。当該年度では、新型コロナウイルス感染症の拡大防止に向けた対応を通じ、さまざまな課題が見えてきたと考えられる。次年度においても、引き続き丁寧な対応に努めること。

また、市税及び市税以外の収入未済額について、滞納繰越分も含めて、不能欠損となる金額を最低限に抑えていくための努力も、全庁通じて努められたい。

- ④ 年度末地方債残高は21,551,561,631円となっており、公債費負担比率14.5%、公債費比率9.7%、実質公債費比率は11.8%であった。ただし、単年度数値では上昇が続いている。また、将来負担比率は49.5%（前年比△12.5%）と、改善傾向が続いている。

背景としては、ふるさと納税寄附金などの特定目的基金の大幅な増加、土地開発基金の増加などが挙げられる。

今後は標準財政規模が縮小し、公債費が年々増加していくことが見込まれるため、適正な市債の発行抑制を図り、引き続き市債残高の推移に注視するよう努められたい。

◇ 歳 出

- ① 歳出の決算額は24,417,339,069円であり、前年度に比べて1,469,841,957円(6.4%)の増となっているが、これは、ふるさと納税事業に係る経費の増加や、ふるさと輝き基金・土地開発基金への積立金の増加によるものである。

今後も大型普通建設事業が集中することと、自主財源の減少などにより、厳しい財政状況が続くものと考えられるため、各種事業の実施にあたっては、事業の必要性や費用対効果を検証した中で、効率的な市民サービスの提供に努められたい。

- ② 歳出面においては、中長期的な財政見通しを常に念頭に置き、創意工夫により編成された予算の下、各種計画に沿った適切な予算の着実な執行に努められたい。

- ③ 施策や事業の終了時には、有効性、効率性などの総括を関係各課で行ない、実施方法や必要経費の見直しなどを通じて、更なる歳出経費削減の取り組みを推進されたい。

また、各施策や執行事業の所管替えや、所管課が曖昧になる際には、担当課を明確にし、市民に対し明瞭な事業執行を行っていくことに努められたい。

- ④ 本市におけるふるさと納税寄附額は、令和4年度においても過去最大の受け入れ額となったが、比例して、事業展開に係る諸経費についても増大している。創意工夫により、経費面での圧縮に向けた取り組みへも努められ、寄附額がより多くの本市各施策に活用されていくことを、強く望むものである。

- ⑤ 各公共施設の管理面においては、世界情勢不安に伴う原油高・物価高騰により、燃料費や光熱水費での予算流用や増額補正、また、市内施設園芸農家や福祉施設運営事業者、指定管理事業者等に対し予備費を活用し、物価高騰対策支援金交付事業も行われた。

コロナ禍における対応に加え、上記のとおり、原油高・物価高騰対策など、次年度以降においても同様に先行きの不透明な状況が続くことが予想される。今後も施設の維持管理経費における執行管理も適切に努められたい。

(2) 特別会計

- ① 国民健康保険特別会計については、国民健康保険税の収入未済額が152,921,269円で前年度に比べて21,514,693円の減であり、不納欠損額は13,102,484円で前年度に比べて3,497,841円の減となっている。引き続き収納率の向上の取り組みに努められたい。

令和4年度における保険給付費は前年度より304,713,501円の減（対前年度比10%減）となっており、日頃からの感染予防の徹底により、コロナ感染症だけでなく季節性感染症の流行もほとんど見られなかったことが背景に考えられる。

これら事業費全体の動きとしては、事業主体である県負担金への影響も想定されることから、今後の受診動向や保険給付費における状況分析へも注視されたい。

- ② 後期高齢者医療特別会計については、本年度の歳出決算額は525,950,825円であり、前年度と比較すると7.7%の増加となった。また、令和4年においては、後期高齢者医療被保険者の負担割合の変更に伴う保険料の増額により、歳入決算額においても、前年度比で7.7%の増加となっている。高齢化社会の進行により医療費が今後も右肩上がりに増加することも想定され、事業費全体でも規模が膨らんでいくことも予想される。

今後も健全な運営を行っていくことができるよう、不納欠損額・収入未済額の縮減に向けた取り組みへも一層推進されたい。

また、後期高齢者になる前に、健康診断や人間ドックを啓発し受診率のアップと共に健康寿命の延伸にも、引き続き努められたい。

- ③ 交通・火災災害共済事業特別会計については、実質収支額3,646,612円となった。加入者21,414人、加入率63.5%と減少傾向にある。

制度の継続と合わせ、一方で今後の方向性についても検討を進める必要がある。

- ④ 浄化槽事業特別会計について、市町村設置型浄化槽整備事業が令和3年度末で終了となり、令和4年度からは個人設置型浄化槽へ移行された。また、設置後10年を経過した市設置型浄化槽を順次、個人へ無償譲渡することとなり、本市における浄化槽事業の制度が大きく転換することとなった。新規整備費の皆減により、令和4年度決算額では、対前年度比で13.7%の減少となった。次年度以降も、個人への無償譲渡による維持管理基数の減少に伴い、予算規模も縮小していくことが想定される。

今後においては、制度変更や無償譲渡後における維持管理への支援など、市民に向けた丁寧な説明や支援策が求められることから、市民ニーズへと適切に応えていくことができるよう努められたい。

⑤ 介護保険特別会計・居宅介護予防支援事業特別会計について、介護に係る対象者は、前年度に比較し0.4%の増となったが、介護保険特別会計での歳入は前年度に比べ0.5%の減となり、介護給付費などの歳出は、前年度に比べ4.2%の減となった。サービスの適正化も含め、介護予防の観点からも、市民が健康でいられるような取組みが求められる。

利用者の負担が増えないよう費用抑制とあわせて積極的な取り組みを実施し持続可能な社会保障制度の確立に向け事業推進に努められたい。

⑥ 活性化事業特別会計について、各温泉施設の利用者は今年度、花かげの湯は44,416人で前年に比べ12,633人の増、鼓川温泉は32,044人で7,184人の増、笛吹の湯が20,159人で5,954人の増と、前年度と比較すると全ての施設で利用者が増加しているが、令和元年度と比較すると、未だに減少している状況である。

一般会計からの繰入金は、68,647,153円と前年度より35.8%の増加となり、歳入総額の71.1%を占めており、依然として赤字経営が続いている状態である。要因としては、コロナ禍による影響が続いていることに加え、原油高・物価高騰の影響により、施設管理面での燃料費・光熱水費の増加が考えられ、当該施設の経営は今後も難しさが増すものと予想される。創意工夫により、今後も利用者が安心・安全に利用でき、安定的な経営となるような対応に努められたい。